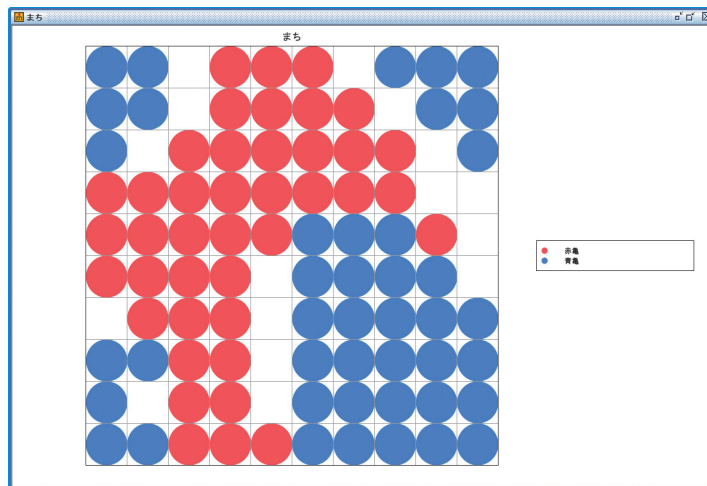


artisocの出力設定には、デフォルトのマップ出力以外にも、グラフや値をそのまま出力することができる機能が備わっています。ここでは、分居モデルを例に、その簡単な紹介を行ないます。

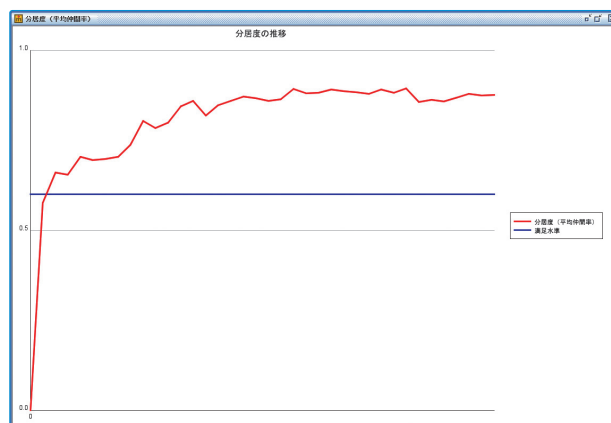
● マップ出力

マップ出力では、XとYからなる二次元空間を表示することができます。また、XとYを空間以外のものとする（たとえば横軸Xと縦軸Yのグラフとみなす）ことも可能です。このような考えは、詳しくは第12章で学習します。



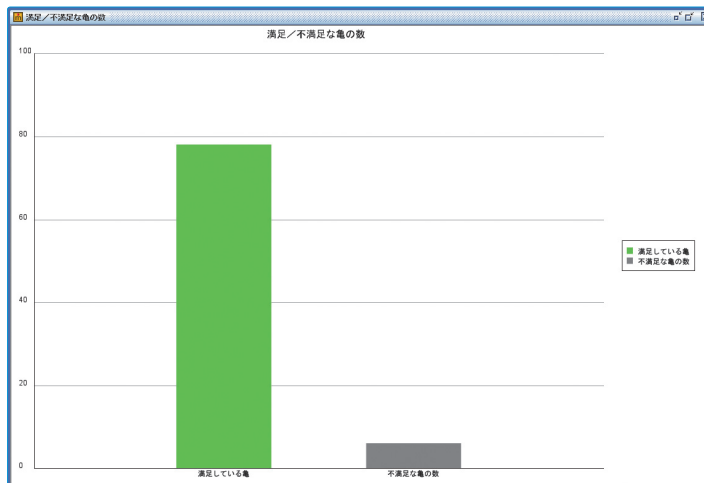
● 時系列グラフ

グラフには時系列グラフと、棒グラフの二種類があります。時系列グラフのX軸には最大表示ステップ数と目盛り間隔が設定でき、Y軸にはメモリ間隔以外に、最大値と最小値が設定できます。その名のとおり、ステップを刻むにしたがって、値の推移を動的に観察することができます。第8章で登場します。



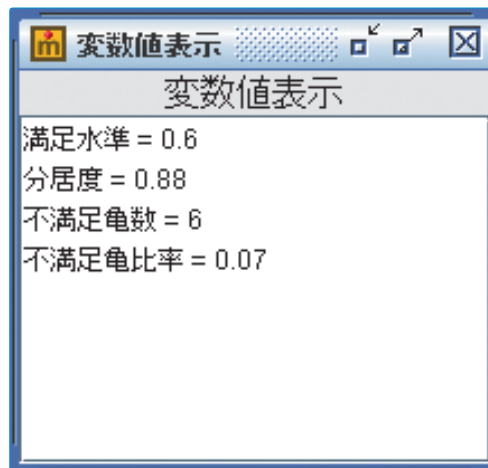
●棒グラフ

artisocで表示できるもう一つのグラフは、棒グラフになります。たとえば、今現在の満足している亀と不満足な亀の数を比較したい時などに便利です。下の図は、分居モデルの棒グラフを表示させた例です。第30章で登場します。



●値画面出力

値画面出力は、変数の値や、計算後の値を画面上に表示してくれます。分居モデルでは、満足水準、分居度、不満足な亀の数、不満足な亀の比率を毎ステップ計算して、表示させています。



●ファイル出力

シミュレーションのログをファイルとして任意のフォルダへ出力してくれます。シミュレーションが終了した後の結果を分析するために、非常に便利な機能です。設定時には、ファイルを出力させたい場所、ファイル名、出力間隔（何ステップ毎に出力するか）、そして区切り文字（タブやカンマ、スペース、あるいは任意の文字が指定できます）を選択します。第36章で学習します。

(保)